

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600620	事業の開始年月日	平成26年8月1日	
		指定年月日	平成26年8月1日	
法人名	株式会社メディカルライフケア			
事業所名	グループホーム幸せふくろう並木			
所在地	(〒252-0228) 相模原市中央区並木1-4-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成30年12月12日	評価結果 市町村受理日	平成31年4月25日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出の機会を多く持つようにし、散歩や外気浴、日用品の買い物などに、ご入居者様と一緒に掛けるように、心掛けています。
行事やイベントを多く取り入れるように心掛けています。
保育園が併設されているので、秋祭りには、子供達と、合同で、のど自慢大会やダンスを披露し、楽しんでます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成30年12月18日	評価機関 評価決定日	平成31年2月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
この事業所は、JR横浜線淵野辺駅よりバスで約5分、バス停「栄公園前」または「千代田」より徒歩4分ほどの静かな住宅地に位置している。近くには公園やコンビニエンスストア、和食・洋食レストランなどがあり、散歩や買い物、外食などに利用できる。木造2階建ての事業所は、2階に居宅介護支援事業所と訪問介護事業所が併設されている。1階には保育園が併設されており、職員が子供を連れて通い、安心して働くことができる。園児は時折ホームを訪れ、かき氷の機械を持参して利用者に振る舞ったり、歌などを披露して利用者には喜ばれている。

【理念に基づいた地域連携】
管理者は、理念の実現のために「地域との連携」に重点を置き、利用者や職員が出来るだけ外に出て地域の人と触れあうことを大切にしている。職員は利用者、家族のような親愛の念を持って接し、共に地域の方と交流して絆を深めている。

【利用者・家族本位のサービス】
ホームでの生活では、職員が、食事の献立や出前の品目、散歩やドライブの行き先、レクリエーションのメニューなど利用者の希望を聴いて、利用者本位に決めている。家族からの要望を把握するために、法人は毎年アンケートを行い、その結果を検討して実行に移し家族に知らせている。家族の事業所訪問や電話の際には、利用者の状況や支援について説明し、意見交換を行って運営やサービスに活かしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム幸せふくろう並木
ユニット名	幸せの森

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム幸せふくろう並木
ユニット名	幸せの泉

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	努めている。	「絆・愛・感動を感じられるサービスを提供し、地域との連携により地域の一員として暮らす。」という理念は、毎月の会議で読み合わせをしたり話し合ったりして再確認し、その実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	努めている。	自治会や、敬老会などに参加している。近隣の小学生が、「まち探検」の授業で訪れ、体験の礼状が届いている。併設の保育園の園児が度々訪れ、利用者と交流している。傾聴、フォークソング、マジックショーなどのボランティアが来訪している。事業所の秋祭りのチラシを配り、地域の方が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なるべく、利用者様を連れて、地域の行事に出るように心掛け、地域の皆様に知って頂ける様に努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。	運営推進会議は2か月毎に開催している。参加者は、利用者、家族、高齢者支援センター職員、自治会役員、同じ建物の居宅介護支援事業所職員などである。事業所の現状報告の後、参加者の意見を聞いている。参加者から、服薬事故の防止方法などのアドバイスを受けていたりしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあったら報告を怠る事無く、指導を仰いでいる。	相模原市の高齢者政策課には、事故報告書などを持参しアドバイスを受けている。中央区の生活支援課が生活保護費受給者の面接に来た際に、本人の状況を報告し対応を話し合っている。相模原市グループホーム連絡会に加入し、他の事業所と、職員の相互見学会などで交流している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。	職員は、身体拘束防止の研修を受けている。職員同士で身体拘束防止について話し合っている。車椅子を利用している方でも、乗ったままにならないよう昼食時には椅子に移乗して食べている。利用者同士でトラブルになり、不意に外に出てしまうことがあり、管理者が双方をカラオケに誘い、仲を取り持って平穏になった例がある。併設の保育園との共同玄関やユニット入口は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネが親切で丁寧な説明を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年アンケートを作成し、ご意見を伺い改善に努力している。	年1回家族アンケートを実施し、結果を集計し家族に報告し、運営にも活かしている。家族の訪問が多く、訪問時にも利用者の暮らしやサービスについて、意見や要望を聞き取っている。訪問の少ない方には、電話をして意向や要望を聞きとっている。「職員の名前が分からない」との意見に応じて職員はエプロンにネームを付けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で意見交換が出来るている。	管理者は、毎月のユニット会議や現場で、職員の意見や提案を聴き取るように努めている。会議では、「あざが出来やすい利用者はどう対応するか」など、身体拘束や高齢者虐待防止について意見交換を行っている。職員面接については、日頃の様子を見たり意向を汲み取ったりして、個別に意見や要望、不満や悩みを傾聴し、ストレスの解消に務めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回自己評価を行い、管理者と面談をしているが、給与などに反映されている実感が無い。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度介護道場という学びの場を設けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者はグループホーム連絡会に参加をし、職員と共にグループホーム交換見学会に参加をし、勉強をし、交流も深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネのアセスメントを基に、日頃の会話を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にあるように「家族の絆・家族の愛・家族の感動」をもとに家族介護の実践に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやり取り等のお手伝いをしている。	家族が迎えに来て、馴染みの実家や家族の墓参りに出かけたりしている。職員が、年賀状や手紙のやりとりの支援をしている。友人や知人、家族などが来訪する場合は、事前連絡をしてもらい、湯茶を準備している。誕生日にはケーキなどを用意し、思い出話を傾聴している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。	利用者の思いや意向、要望などは、職員が中心となり日頃から意思の疎通を図って聴きとっている。意思の疎通が困難な場合は、寄り添って表情や仕草などを見て汲み取っている。管理者は、職員から報告を受け、検討して対応を決めている。誕生日のケーキやイベントなどで出前をとる際は、利用者の希望に合わせ品目を決めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表や会話の中から得た情報を職員同士で共有するように、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議での話し合いや、日々の申し送り、記録で計画作成者に伝えている。	介護計画は、個々のニーズや課題を抽出し、自立に向けた支援内容を設定し、日々の支援状況を記録している。交換訪問した事業所と実施記録の様式について情報交換し、介護計画の目標に沿った実施記録をつけるように取り組んでいる。担当者会議は、管理者、職員、家族が出席し意見交換してモニタリングを作成している。見直しは通常3か月、変化がある場合はその都度行っている。	現在行っている取り組みをさらに推進し、介護計画の目標やサービス内容の実施について記録し、実施結果を評価して見直しの根拠とすることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じた対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物など楽しむことが出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	現在、協力医療機関は2カ所あり、交代で月2回来訪し利用者全員の診察をしている。訪問看護師は毎週来訪し、健康管理などを行っている。来年3月から協力医療機関は1カ所となる。歯科は毎週、口腔ケアで来訪し、必要があれば治療をしている。自費で訪問マッサージを利用している方がいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	協力医療機関が24時間オンコール体制である。入居時に「重度化及び看取りに関する指針」を説明し、「終末期および急変時の延命医療に関する同意書」を受け取っている。同意については状況の変化に応じて再確認している。医師が終末期にあると判断した場合は、家族と話し合い、希望があれば看取りをする。最近、1件の実施例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護道場で学ぶと共に、自己啓発を促している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	出来ていない。	災害備蓄は3日分以上の飲料水・主食や缶詰類などの食料、カセットコンロなどの備品を保有し、備蓄表で回転管理している。敷地内に非常用対策として、自動販売機（緊急時飲料ベンダー）を設置している。防災訓練は、今年度は実施していない。	予想される大震災や火災発生時にそなえ、定期的に、総合訓練や夜間想定訓練を実施することを望みます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けている。	職員は、接遇やプライバシー保護の研修を受けている。言葉による制止については、いまのところ見られない。他の利用者や外来者の前で、職員が、家族に本人のことを話す場合は、事務室などで話している。介護計画に関する担当者会議は、利用者の居室で行うこともある。リビングで使う書類は戸棚に収納し、個人情報を含む書類は、施錠できる書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の人員配置の面で、難しい時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思を尊重している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ている。	食事は、職員が冷蔵庫にある食品を見て献立を作り、調理して出来たてを提供している。利用者は、テーブル拭き、食器洗い、食器拭きなどを手伝っている。食材は、ネット販売や近隣スーパーで購入したりしている。ホワイトボードに、ソフトドリンクのリストを書いて、好みのものを提供している。新年会でノンアルコールビールをたしなむ人もいる。近くの和食店に外食に出かけることもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	行っている。	職員は、排泄をチェック表に記録して個々のパターンを把握している。日中はトイレでの排泄を目標として、タイミングを見たり表情や仕草を観察したりして、さりげなく声かけや誘導をしている。夜間の排泄介助は睡眠優先であるが、約2時間毎に定期巡回し、利用者によっては頃合いを見計らってトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	施設側の都合になっているところがある。	入浴は原則として週3回とし、清潔の保持に気を配っている。体調などによりシャワー浴などに変えることもある。浴室は1階に普通浴と機械浴、2階に普通浴の合計3か所ある。浴槽の湯は、かけ流しにして午前と午後で交換している。エアコンや温風機でヒートショック対策をしている。秋には、近所の方から頂いた柚を入れることもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、カラオケなど希望に添う支援をしている。	天候が良ければ、事業所の周囲を散歩している。車椅子の利用者にも対応している。入居したばかりで、繰り返し外に出ることを希望する方には、敷地内の自動販売機まで付き添って、飲み物を購入するなどして気分転換をしてもらっている。普通車とワゴン車で車椅子の方も一緒に、津久井湖、麻溝公園などに出かけ、桜や菊の見物や紅葉狩りをしている。利用者の希望を聴いて外食にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の買い物ができるように常に配慮し、所持金が不足した場合はご家族に連絡するなどの支援が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やFAXを利用したり、手紙の手伝いなどの支援が来ている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。	共有部分は、バリアフリー構造である。広いリビングは、採光がよく明るく、床暖房と加湿器で温度や湿度を適度に保っている。ソファを置いてくつろぐ場所を作っている。リビングの厨房から見守りし難い一角があるが、職員は、利用者が行く際には付き添いや見守りをしている。壁には、クリスマスツリーや手作りのリース、生花などが飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来る範囲での工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望を尊重している。	居室は、空調設備、照明器具、収納設備、防災カーテン、ベッドなどが常備されている。利用者は、馴染みの衣類や寝具、整理ダンス、家族の写真やクリスマスツリーなどを飾り、個性的で住み心地良くしつらえている。室内は、居室担当者が清掃や衣類の交換を支援し、整理・整頓が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理や洗濯、趣味活動等工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム幸せふく
ろう並木

作成日 31年 4月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	町会長様がお仕事をされているため、運営推進会議への参加が難しく、地域の方の参加が出来ていない。	町会長様以外の地域の方に参加して頂き、また地域の活動の参加協力を推進。	地域の活動に入居者様や職員が参加する。	今期中。
2	6	身体拘束廃止に関する研修を行っているが、委員会等の設置がないので継続できているかの判断ができない。	身体拘束廃止委員会を設置し、運営推進会議などで活動状況を報告する。	1階2階のリーダーが身体拘束廃止委員となり、全職員にユニット会議で定期的に研修を行う。	今期中。
3	26	介護計画に沿ったケアを実践しているが、ケア記録に反映できておらず、モニタリングの時などの資料に不足がある。	日々のケア記録が介護計画のどれに当たるかをわかりやすく記録する習慣を身に着ける。	記録の研修を通して、計画に沿ったケアを実践している事が明確になるような書き方を学ぶ。	今期中。
4	35	夜間を想定した訓練や、地域との連携体制が出来ていない。	夜間、夜勤者のみの対応を訓練する。 運営推進会議で、災害時の協力をお願いし、地域の高齢者に備蓄のオムツなどの提供協力をお知らせする。	夜間を想定した避難訓練の実施。 運営推進会議で協力依頼をする。	令和1年7月に避難訓練実施。定期的運営推進会議で協力依頼。
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が53足りない場合は、行を追加すること